

報告日	令和 8 年 1 月 13 日 (火)	報告者	吉武惇二
分科会名	古文書を読む会		
開催日時	令和 8 年 1 月 8 日 (木) 午前 10:00 ~ 12:00	開催場所	金沢公会堂第 2 会議室
参加人数	男性 6 名 女性 3 名	聴講者 2 名	合計 11 名 (欠席者 1 名)
<p>本日の講義は、(1) 「出雲王朝は存在したか」と(2) 「法隆寺と夢殿の謎」についてであった。</p> <p>(1)これまで銅剣、銅鐸、銅矛の発見は、主として近畿および北九州とされてきたが、近年、出雲でも大量の銅剣（358 本）銅鐸、銅矛が発見されたことから、出雲王朝の存在が注目されるようになった。さらに、国譲りではなく出雲王朝は大和王朝との戦いに敗れ滅亡されたため、その見返りとして高層の出雲大社を立て監視されるにことになったのだと推察する見方も出されている。</p> <p>(2)日本書紀にいう天智 9 年（670）に焼けたのは若草伽藍の斑鳩寺であり、現法隆寺は焼けていない。次に、奈良時代（739）に建造された法隆寺「夢殿」の本尊「救世觀音」について、その像を見たものは法隆寺の僧「行信」と「光明皇后」のみといわれており、明治 17 年になって初めて開封された。それまで觀音は白布に巻かれており、仏像の頭部釘打ちや胴と足は中空などと不明な点が多く、建立の目的は謎とされている。一説に、藤原氏が滅亡の危機に陥った直後に大量の寄付が法隆寺になされていることから、太子一族滅亡の“たたり”の封印並びに一族の鎮魂と逆に天皇家・藤原家興隆祈願の意味があるとの説も出されている。</p>			
<p>次回予定 令和 8 年 2 月 12 日 (木) 10:00 ~ 12:00</p> <p>場 所：金沢公会堂第 2 会議室</p> <p>テーマ：江戸時代の大災害について</p> <p>(1)元禄の小田原地震、幕末の安政三大地震</p> <p>(2)富士山と浅間山の噴火</p>			